

手引き

短歌に強くなる！

短歌は、千年以上も昔から歌われ、親しまれてきた日本の伝統的な詩の一種です。五七五七七の三十一の音数をもつので「みそひともし」とも呼ばれています。

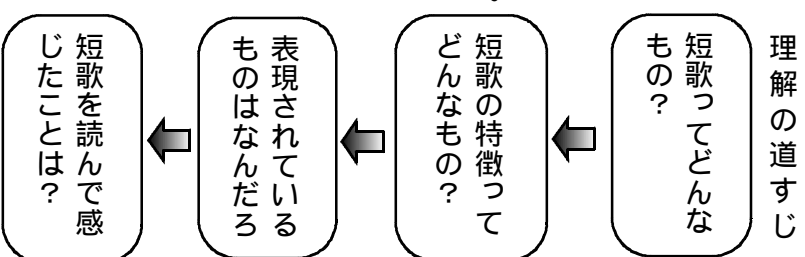
短歌を鑑賞する時には、作者の思いを読み取ることが大切です。情景を思い浮かべ、感動の中心をとらえましょう。

一、短歌の形式

- ・五・七・五・七・七（三十一音）の定型詩。
 - ・上から順に、初句（一句）、二句、三句、四句、結句（五句）という。
 - ・短歌は一首、二首と数える。
 - ・三句までを上（かみ）の句、四句以下を下（しも）の句という。
 - ・三十一音が原則だが、一、二音多かつたり少なかつたりする場合がある。多い場合を字余り、少ない場合を字足らずという。
- 歌の途中で流れが一度終わるところを句切れという。

二、短歌読解の手順

- ・声に出して、くり返し読もう
- ・音読して、五、七、五、七、七のリズムを感じ取ろう。
- ・表現の工夫をとらえよう
- ・表現技法、リズムの特徴を押さえ、その効果を考えよう。
- ・情景をとらえよう
- ・短歌によまれている人物、物、出来事、風景などの情景を押さえ、想像しよう。
- ・作者の思いを読み取ろう
- ・情景からどんな様子を感じられるのかを考えよう。
- ・心情を表す言葉に注目しよう。



表現技法	特徴	効果	例
枕詞	特定の言葉を導き出すために、その前に置く五音の言葉。	調子を整え、短歌に膨らみを与える。	た <u>ら</u> ちねの母がつりたる青蚊帳あおかや）を すがしと寝ねつたるみたれども
喩法	ものごとを他のものごととに例える。	印象を鮮明にする。	やはらかに柳あをめる 北上の岸辺目に見ゆ 泣けごとく
反復法	同じ言葉、または、少し変化した言い方を繰り返す。	リズムを生み、印象を深める。	みちのくの母のいのちを一目見ん 一目見んとぞただにいそげる
倒置法	語順を入れ替える。	意味を強め、印象を深める。	金色のちひさき鳥のかたちして 銀杏（いちじょう）ちるなり夕日の丘に
体言止め	結句の最後を体言（名詞）で止める。	意味を強め、余韻を残す。	春の鳥な鳴きそ鳴きそあかあかと 外（と）の面（も）の草に日の入る夕べ